

7月20日（日）

メルボルン動物園視察

去る6月24日にメルボルン動物園より本市の天王寺動物園にコアラ2頭を寄贈いただき、また、過去3回にわたりメルボルン動物園からコアラを寄贈いただいていることから、平松市長がみずから謝意を伝えるためメルボルン動物園を訪問した。

メルボルン動物園は、メルボルン中心部の北側のロイヤル・パーク内にあり、1862年設立のオーストラリアで最古の歴史を誇る、また、世界でも3番目に古い動物園である。22ヘクタールもある広い敷地内に350種類以上、3,000点を超す哺乳類や鳥類が自然に近い形で飼育されており、動物たちが快適に過ごせるように、檻や壁を極力減らし、自然に近い環境をつくることに努めているとのことである。



カンガルーや鳥類、エミューなどが檻に関係なく飼育されており、動物たちの行動を自然な形で見学、観察できる工夫がされていた。

ウォーターフロントシティとドックランズの都市デザイン計画視察

VIC Urban のマシュー・マルケアンズ氏よりドックランズにおける再開発の概要について、現場を視察しながら説明を受けた。

ドックランズは、メルボルン市の西側、ビクトリア・ハーバーに面した港湾地区（200ヘクタール）で、現在、大規模な陸地・水上再開発が進行中である。

この再開発は、市街地を水辺までもってこようとするユニークなプロジェクトであり、水の部分を除くとメルボルン市街地開発と同じサイズである。



ドックランズにおける再開発の概要、
現状について現場視察

現在3分の1が完成しているが、あと2～3年の間で75%が完成する予定である。すべて完成すると人口1万7,000人、通勤人口4万～4万5,000人、訪問者2,000万人の見込みである。

今のままでも十分機能しているが、デザイン的に見直せると考えており、その際、水とのつながりをどううまくとっていくか検討中である。

ドックランズは、多目的地域を目指しており、商業エリアにはナショナル・オーストラリア銀行（NAB）の本社ビルやエリクソン社ビルなどが建ち並んでいる。

現在、オーストラリア・ニュージーランド銀行（ANZ）の自社ビルが建設中であり、完成すれば6,500人の従業員がこのビルで働くことになるとの説明であった。このビルは、すべての窓を開閉の窓にする、ビル内に差し込む採光を良くするなど環境にやさしい建物であり、全豪グリーンビルディング協議会が認定する環境デザインの6つ星を与えられている。



6つ星はオーストラリアで3カ所の建築物にしか認められておらず、他にはメルボルン第二市庁舎がある。

「イニシャルコストは高くないのか」との質問に対し、「デベロッパー側ではなく、テナント側から環境にやさしい建物にしてほしいとの要望がある。開発コストについては高くなるが、長い目でみれば維持コストは安くすむ。」とのお答えであった。

また、オーストラリアでは、開発コストの1%は芸術品の購入や芸術環境の整備のために充てるよう法律（パーセント・プログラム）で義務付けられており、ドックランズにおいても、所々にオブジェが飾られていた。



多種多様なオブジェを見ることができる

その後バスで移動し、この地区の都市デザイン計画のなかで最大の集客施設である観覧車「サザンスター」の視察を行った。

この観覧車は現在建設中であり、完成すれば高さ120メートルとなり、ロンドン、シンガポールに次いで世界で3番目に大きい観覧車になるとの説明があった。

完成時期は11月中ごろであるが、公開時期はまだ決まっていないとのことである。お台場やHEP ナビオの観覧車を建設した大阪の企業である「株式会社サノヤス・ヒシノ明昌」によりキャビン及び中心軸の基軸ドラムを日本で製作し、オーストラリアで取り付け工事を行っている。

「この観覧車のことはメルボルンでは話題になっているのか」との質問に対し、「マスコミも取材にきているが、一般の人々にどのように説明できるか、知らせていくのかも重要である。」とのことであり、今後のPR活動が重要であるとの認識であった。

また、株式会社サノヤス・ヒシノ明昌より技術面の指導のため派遣されている職員の方は、メルボルンの人々の仕事のペースに最初は慣れなかったが、最近ではゆったりとしたペースにすっかりなじんで快適であるとの感想を述べられた。

ビクトリア州観光局表敬訪問

ドックランズのニューキーからヤラリバークルーズ船に乗り、ヤラリバー沿岸の開発状況や観光施設について、ビクトリア州観光局の高森マネージャーより説明を受けた。

ビクトリア州には、日本から年間6万人が訪れ、そのうち大阪府からは1万2,000人が観光やビジネスを目的として訪れている。また、現在ビクトリア州には1万人以上の日本人が住んでいるとのことである。



ヤラリバー沿岸の様子

ヤラリバー沿岸には、ユーレカ・スカイタワーをはじめとする高層アパートが建てられているが、昨今、オーストラリアにおける住居の考え方は変化してきているとの説明があった。従来オーストラリアでは、家を購入することができない者がアパートを購入するという考え方があったが、最近では、便利なところに住みたい、まちなかに住みたいという考え方に变化しており、若者やエンプティネスターズ（子どもたちが巣立った夫妻）、資本投資として購入する者がアパートを購入しており、約40%は

投資としてアパートを購入している人たちであるとのことである。

その後、ヤラリバー沿岸の開発状況等について説明をいただき、サウスゲートで下船後、ヤラリバー沿岸開発の一つであるユーレカ・スカイタワーへ向かった。

ユーレカ・スカイタワーは、地上 92 階、高さ 300m のメルボルンで一番高いビルである。下層階はオフィス、上層階は高級マンションの複合ビルであり、高層マンションとしては世界で最も高い建物である。88 階部分には「ユーレカ・スカイデッキ 88」と呼ばれる展望台があり、これは南半球で最も高い公共展望台である。デッキは、視界 360 度、壁一面がガラス張りになっており、メルボルンとその近郊の景色が楽しめる。

居住スペースは完売しており、最上階の部屋の価格は日本円で 7 億円である。

その後、メルボルン F 1 グランプリのコースとなっているアルバート湖を周回する公道・駐車場やメルボルンで一番の資産家が住み、多くの有名高校が集中する場所である高級住宅街のまちなみ、トゥーラック等を車内から視察した。